

関係者各位

スーパー耐久レース Rd.1 SUGO 戦報告

新型 Nissan Z NISMO GT4 デビューレース

4月20日、スーパー耐久 2024 Rd.1 SUGO 4時間レースが開催され、8クラス56台が参戦し、TEAM ZEROONEからは25号車、26号車共にNissan Z NISMO GT4 2台揃ってのデビューとなった。13年ぶりのスポーツランドSUGOでの開幕戦、日産メカニックチャレンジとしての活動は、日産栃木自動車大学の学生が10名、日産販売会社のテクニカルスタッフ(TS)は8名が参加し、レースに関わった。

■ 予選

4/20(土)コースコンディション：ドライ

今回の予選は、例年の予選方式(タイム合算)ではなく、ノックアウト方式での予選となった。ノックアウト方式では、AドライバーのQ1の順位によってQ2に進出できるかが決まり、BドライバーによるQ2の結果で最終的な予選順位が決まる。25号車は、Q1をAドライバー植松選手、26号車はAドライバー大塚選手が担当。25号車は植松選手が4番手(1,27,519)で通過。26号車は大塚選手がトップ(1,26,652)で通過。最終的な予選順位はQ2のBドライバーに託されることになった。上位6台で争われるQ2では、Toyota GR Supra 2台、Nissan Z NISMO GT4 3台、Mercedes AMG GT4 1台での戦いとなり、25号車松田選手は4位、26号車富田選手は見事ポールポジションを獲得し、Nissan Z NISMO GT4の速さをアピールできた予選となった。

■ 決勝(4時間レース)

4/20(土)コースコンディション：ドライ

決勝レースフォーマットは開幕戦では珍しく4時間レースでの開催となり、各チームどの様な戦略で戦うのかが見どころとなった。TEAM ZEROONEはスタートを25号車は松田選手、26号車は富田選手が担当することになった。12:45にスタートが切られると、26号車は後続を引き離す好調なスタートを見せる。25号車は#885をオーバーテイクし1つポジションを上げ、3位浮上。2台共に好調なスタートを切れた。25号車は#52と接近するバトルを繰り広げ、26号車は後続を10秒以上引き離すことに成功。レース開始1時間20分を過ぎたところで、26号車は後続と21秒ギャップを作った。56周を過ぎたところで、ライバル#52、#885と共に25号車が1回目のピットイン。25号車はタイヤ4輪交換し松田選手から植松選手にドライバー交代。ライバル#52はタイヤ無交換作戦を決行しトップ浮上。翌周26号車もピットインし、タイヤ4輪交換し、富田選手から大塚選手にドライバー交代。#52にトップを奪われることになったが、大塚選手は好タイムを刻みながらギャップを縮めることになった。レース開始1時間45分を過ぎたところで、ライバル#20が最終コーナーで大きくクラッシュ。セーフティカーが導入され、前後とのギャップがなくなり、残りレース2時間のタイミングでリスタート。このタイミングで他のクラスとの交錯に

より、26号車はトップを走る#52に大きくリードされることになってしまった。レースリスタート後、大混戦の中25号車植松選手はライバル#885と接触。25号車はマシン左側に大きなダメージを受けたため、緊急ピットイン。メカニックによる懸命な修復作業行われることとなった。トップを追う26号車はライバル#52とのギャップは20秒、タイヤ無交換の#52に対し、タイヤ4輪交換している26号車の方がラップタイムが良く、ライバルを追う展開となった。残り1時間25分のところで、26号車はピットイン。左側のタイヤ2輪を交換し、大塚選手から篠原選手にドライバー交代しコースに復帰。しかし、このドライバー交代の際に、トランスポンダー(計測器)の切り替えミスにより、モニターには荒選手の名前が表示されてしまう事態となってしまった。残り1時間のタイミングで#52はピットインしジェントルマンドライバーに交代。トップを追う26号車と#52のギャップは、4秒差。篠原選手の猛追により、残り50分のところで#52をオーバーテイクすることに成功。後続を25.4秒離す好走により、トップでチェッカーを受けた。

※チェッカー後にトランスポンダーの切り替えミスによるペナルティが課され、決勝結果に30秒加算され、#52が26号車と4.627秒差をつけ逆転優勝となった



■ 日産メカニックチャレンジ活動

1. ピット活動

今回は日産販売会社テクニカルスタッフ(TS)8名と日産栃木自動車大学校学生10名が参加した。チームの一員としてよりコミュニケーションを高めるためTSと学生のチームを編成し、担当車両、担当プロメカニックを固定化した。このことで、学生はプロ集団の雰囲気を感じることなくスタートを切ることが出来、またTSもプロメカニックと学生のつなぎ役として役割を認識することが出来た。参加メンバーからは「プロメカニックの作業のスピード、正確性に圧倒された」「ネジ1本緩んでいればドライバーの命に関わると感じた。これは日常のお客様のクルマの整備でも同じであると思った。」「もっと積極的に行動しないといけない、と思いながら前には出られない自分がある。明日からは積極的にコミュニケーションを取ろうと思う。」などの意見が述べられた。TS、学生共にこの活動を通じて、何かを会得してのではないかと感じた。

2. チームドライバーとの交流会

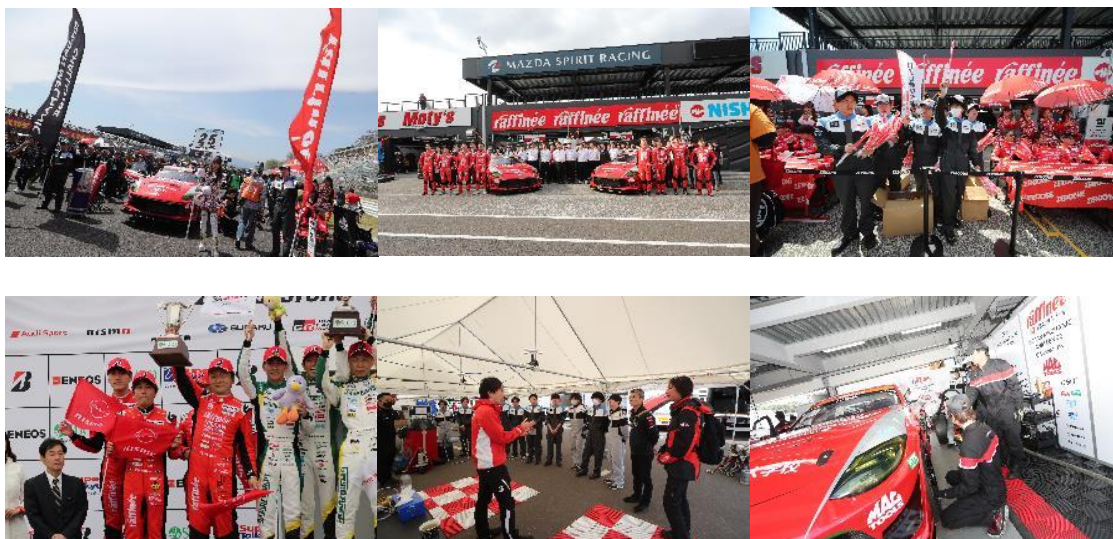
ゼロワンドライバー8名と販売会社TS、学生の交流会を実施した。有名ドライバーが一同に会した場であり、「このようなメンバーと近くで話せるだけで夢のよう」というTSからの感想があった。さらに「今まで最も厳しかったレース体験は何か?」「レーシングドライバーに必要な要件は何か?」など、多くの質問があり、ドライバー全員がユーモアを交えて答えていた。TS、学生からの質問はまだあったと思うが、限られた時間の中でとても中身の濃いイベントとなった。

3. マックメカニクスツールズ特別講習

毎回恒例となっている「マックメカニクスツールズ特別講習会」が今回も実施され、日産販売会社 TS と日産校学生全員が参加した。工具の正しい使い方について日常の実務の話を変えた説明はとても分かりやすく、講習終了後も多くのメンバーが残り、工具の確認、講師への質問を行っていた。サーキットにおいてこのような特別講習を実施していただく、パートナー企業のマックツールには大変感謝している。

4. プリチストンタイヤサービス見学

Group1 の決勝レース日、昨年より恒例となりつつある「プリチストンタイヤサービス見学」が今回も実施され日産校学生全員が参加した。早朝の営業時間前だったためマシンは稼働していなかったが、その分時間をとってタイヤの組付け作業の工程や BS タイヤの特性について丁寧に教えていただいた。質問タイムも設けられ、学生たちからはたくさんの手が挙がり大変有意義な時間となった。



■ゲストエリア

ゲストエリアには、約 100 名のゲストが応援のためサーキットを訪れた。

ゲストエリアにはピット裏テント（約 15 名収容）に加え、コースサイド大型テント（収容人数 80 名）、を準備。延べ 100 名以上のお客さまに会場いただき、お昼時には席が満席になるほど盛況だった。

コースサイド大型テントでは、パートナー企業の『マックツール』、『ディーフ』、『Zoff』の商品展示や、『日産・NISMO グッズ』展示を行い、商品の魅力を来場されたお客様にアピールした。

更に今回モニターにピット内のライブ中継を映し出したことで、コース映像には映らないピット作業時の車両の状況もゲストエリア内でご覧いただけました。

また、決勝前にはチーム代表と柳田真孝監督がゲストエリアを訪れ、決勝レースに向けての意気込みをお話すると共に、来場されたスポンサーの皆さまや日産販売会社の皆さまと更に密に連携を取りながら次のステージへ向かっていきたいと抱負を語った。

レース以外にも raffinée Lady との写真撮影会をお楽しみいただいた。



■ 次戦に向けて

今回のレースでは人的ミスにより大変悔しい結果となってしまったが、次戦富士 24 時間レースに向け気持ちを切り替え臨んでいきたい。24 時間レースは一発の速さより、24 時間マシンを壊さず走ることが目的のため、2 台揃って表彰台を目指し完走したい。

以上
TEAM ZEROONE